

琉球大学学術リポジトリ

琉球宮古諸方言の音韻： 琉球宮古方言の音声資料の収集・研究

メタデータ	言語: 出版者: 狩俣繁久 公開日: 2009-02-25 キーワード (Ja): 琉球方言, 宮古諸方言, 平良方言, 音声資料 キーワード (En): RYUKYU DIALECTS, DIALECT OF MIYAKO ISLANDS, HIRARA DIALECT, DATA OF PHONETIC 作成者: 狩俣, 繁久, Karimata, Shigehisa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/8908

4.1.1.3.1. 両唇破裂音 /p, b/

(1) 無声の両唇破裂音 /p/

平良方言の /p/ は、標準語のハ行子音 /h/ に対応してあらわれるが、これは、古代日本語ではハ行の子音が *p であったと推定されているので、その *p が保存されているとみるべきもので、日本語のふるい姿をのこしている。

(標準語との対応をしめすときに母音の長短を無視することがある。)

標準語	平良方言
/ha/	— /pa/ [pana] 花、鼻、[pana] 墓、[pama] 浜
/hi/	— /pɪ/ [p ^s ɪgi] 髭、[p ^s ɪdaɪ] 左、[p ^s ɪtu] 人
/hu/	— /f/ [fni] 船、[fta:tsɪ] 二つ
/he/	— /pi/ [pi:] 屁、[pira] へら、[pidzɪ] 肘
/ho/	— /pu/ [puni] 骨、[pu:] 帆、穂

注) 奥舌のせま母音 /u/ と結合する /p/ が摩擦音 /f/ になるのは、上村1989のいう「おしひろげ」現象による音韻変化であって、つよい呼気によって唇がおしひろげられた結果、破裂音 /p/ が摩擦音 /f/ に変化したのであろう。[摩擦音 /f/ の項参照。]

古代日本語の語中のハ行子音 /p/ は、「ハ行転呼音」とよばれる音韻変化によって、/w/ をへて消失したとかがえられているが、さきにものべたように、他の宮古諸方言のばあいと同様に、語中の /p/ は消失するのが原則だが、/p/ を保存するばあいがある。

[japa:japa] 柔らかい、[kupa:kupa] 堅い (古語「こはし」に対応)、[apa:apa] 味が薄い (「あはし」に対応)、[o:pa] 青菜、[kə:ta:pa] 不具者 (片端[かへ] に対応)、
[upu:upu] 大きい (古語「おほし」に対応)

標準語との対応では、/b/ であられるはずだが、つぎの2語は、/p/ があらわれている。いずれも /p/ に先行するのは、無声の成節的な子音 [ʃ] である。この [ʃ] の影響によって後続する [b] が無声子音化したのであろう。

〔aʃp^sɿ〕遊ぶ、〔naʃp^sɿ〕なすび

その他の語例

- ／pɿ／〔p^sɿgaː〕比嘉(地名)、〔p^sɿguruka^zɿ〕冷たい、
〔p^sɿka^zɿ〕光、〔p^sɿsara〕平良(地名)、〔p^sɿsuma〕昼間
／pi／〔pi^zɿ〕針、〔pinda〕山羊、〔aspi〕遊べ
〔piʃiːpiʃi〕寒い、〔piʃi〕干瀬、〔pita〕下手
／pa／〔panata〕崖、〔pani〕羽、〔aspa〕遊ぼう(勧誘)
〔paʃam〕はさみ、〔paʃtu〕鳩、
／pu／〔pundai〕わがまま、〔pu^zɿ〕掘る、〔mːpurja〕芋堀具
〔puʃka〕外、〔puʃki〕ほこり、
／piː／〔piː〕屁、〔piːttʃa〕少し、〔piːgama〕笛、
／paː／〔paːgatsɿ〕海綿、〔paː〕祖母、〔japaːjapa〕柔らかい、
〔kupaːkupa〕堅い
／poː／〔poː〕這う、〔poːtsaː〕料理人(包丁に対応)、〔poːk^sɿ〕
箒、〔gumpoː〕ゴボウ
／puː／〔puːroːmami〕さや豆、〔upuːupu〕大きい

(2)有声の両唇破裂音／b／

平良方言の両唇の有声破裂音／b／は、標準語の／b／に対応してあらわれるほか、古代日本語のワ行子音／w／に対応してあらわれる。

標準語 平良方言

- ／ba／ — ／ba／〔basa〕芭蕉、
／bi／ — ／bɿ／〔dab^zɿ〕茶毘(葬式)、〔ib^zɿ〕伊勢海老
／bu／ — ／v／〔avva〕油、〔kuv〕昆布(こぶ)
／be／ — ／bi／〔nabi〕鍋、〔junabi〕夜なべ
／bo／ — ／bu／〔tsɿbu〕壺、

注) 奥舌せま母音／u／と結合した／bu／は、成節的な子音／v／〔ɥ〕に変化している。これは *pu→f の音韻変化と平行に起きた音韻変化であろう。

[摩擦音／v／の項参照。]

また、古代日本語のワ行の子音／w／が平良方言で／b／に変化している。これは、

さきにものべたように、つよい呼気が原因でおきた変化で、他の宮古諸方言、あるいは八重山諸方言、与那国島方言、すなわち、南琉球諸方言に共通にみられる現象である。

標準語 平良方言

／wa／ — ／ba／ [bara] 薬、[bana] 畏、[ba^z₁] 割る、
／wi／ — ／b₁／ [b^z₁:] 亥(十二支)、[bi^z₁i] 坐れ(命令形)
／we／ — ／bi／ [bju:₁] 酔う、[bigu^z₁] えぐる
／wo／ — ／bu／ [buba] 叔母、[butu] 夫、[bu:nu] 斧

語中のワ行子音／w／は、ほとんどのばあい、消失してしまっている。標準語のばあい、「わ」にかぎって、語中の／w／を保存しているが、平良方言のばあい、その語中の「わ」の／w／も脱落している。母音によっては、／w／の前後の母音が融合している。(ただし、語中の「ゑ」に対応する語例は見つかっていない)

あわ(泡) [a:]、せわ(心配) [ʃa:]、たわら(俵) [ta:ra]
ある(藍) [ai]、なる(地震) [nai]、
さを(竿) [so:]、あを(青) [o:]

語頭に／p／のあらわれる単語が複合語の後要素になるとき、連濁によって／p／が／b／に変化する。

／pana／花 → ／akabana／ハイビスカス(赤花)
／puni／骨 → ／jumbuni／腰骨
／pa:／歯 → ／maiba:／前歯、

標準語との対応が不明な単語で、語頭に有声破裂音／b／をもつ語がみられる。

[bataf] へそくり、[biygassa] くわずいも(植物) [babja]
鯛の一種、[bank^s₁] 桑の実、[biraf] 籠の種類

その他の語例

／b₁／ [b^z₁da:b^z₁da] 低い、[b^z₁gu] いぐさ、[kab^z₁] 嗅ぐ
[kab^z₁] 紙、[tab^z₁] 旅、[jub^z₁] 吸う

/bi/ [bidu] 餌、[bikidum] 男、[bigo:bigo:] くすぐ
 ったい、[jarabi] 子供(童)、[kubi] 壁、[uibi] 指
 /ba/ [bak^sɪda] 腋臭、[bata] 腹、[ba^zɪ:ba^zɪ] 悪い、
 [gabaʃu:] 曾祖父、[saba] 草履、[naba] 垢、
 /bu/ [budza] 叔父、[buʃ] 勇ましい人(武士)、[bututu^zɪ] お
 ととい、[nubui] 喉、[tsɪbu] 壺、
 /bɪ:/ [b^zɪ:] 坐る、[b^zɪ:kun^zɪzu] ヒラメ、[nab^zɪ:nab^zɪ]
 すべっこい、
 /bi:/ [bi:ɪ] トンボ、[bi:ngu] オオハマボウ(植物)
 /ba:/ [ba:ki] ざる、[ba:ki] ざる、[ʃiba:ʃiba] 狭い
 /bo:/ [bo:] 童名の一つ、[bo:ʃi] 帽子、[bo:dzɪ] 坊主
 /bu:/ [bu:] 麻(ノカラムシ)、[bu:gɪ] 砂糖きび、

注) 規則的ではないが、宮古諸方言では、b→g、あるいは、g→bの変化がみられる。

b→gの例 [f g^zɪ] 首、[tsɪ guʃ] 膝[ツシ]「名義抄」]
 g→bの例 [k a b^zɪ] 嗅ぐ

4.4.1.1.2. 前舌破裂音 / t, d /

前舌と硬口蓋とで調音される平良方言の破裂音には、無声破裂音の / t / と有声破裂音の / d / がある。いずれも前舌面と歯茎から硬口蓋にかけての部分とのあいだに閉鎖を形成して調音される破裂音である。

(1) 無声の前舌破裂音 / t /

/ t / と標準語の子音との対応はつぎのとおりである。

標準語 平良方言

/ta/ — /ta/ [ta:] 田、[taki] 竹、[kəta] 肩、
 /te/ — /ti/ [ti:] 手、[tiŋ] 天
 /to/ — /tu/ [tuɪ] 鳥、[tura] 寅、[atu] 跡

標準語のタ行子音のうち、イ段とウ段の音節の子音は破擦音であられる。平良方言も標準語と同様に破擦音であられるので、破裂音 /t/ があられるのは、タ行のア段、エ段、オ段の音節においてである。

その他の語例

- /ti/ [tiɥ] 投げる、[tida] 太陽、[tiɳdzaku] 鳳仙花、
 [mi^zɪti] 三年、[m:ti] 六年、[mumuti] 百年
 /ta/ [taykja:] 一人、[tatam] 畳、[tətsɪ] 辰(十二支)
 [səta] 砂糖、[fta] 蓋、[m̩ta] 土、
 /tu/ [tunaka] 卵、[tugja] 棘、[tudzɪ] 妻、[tuɪ] 鶏
 [butɥtu^zɪ] おととい、[utɥtu] 弟妹
 /ti:/ [p^sɪti:tsɪ] ひとつ
 /ta:/ [fta:tsɪ] ふたつ、[fta:^zɪ] ふたり、[ʃta:ra] 下方
 /to:/ [to:] 誰、[to:ɥva] 台所、
 /tu:/ [tu:] とお、[tu:ti] 十年、[tu:tu:] 遠い、

(2) 有声の前舌破裂音 /d/

標準語のダ行子音のうち、イ段とウ段の音節の子音は破擦音であられる。平良方言も標準語と同様に破擦音であられるので、破裂音 /d/ があられるのは、ダ行のア段、エ段、オ段の音節においてである。

標準語 平良方言

- /da/ ー /da/ [daʃ] 出汁、[p^sɪdaɪ] 左
 /de/ ー /di/ [sudi] 袖、[udi] 腕
 /do/ ー /du/ [duru] 泥、[kadu] 角

語頭で /t/ であられる単語が複合語の後要素になるとき、連濁によって /d/ であられる。

- /ta:ra/ → /ma^zɪda:ra/ 米俵
 /ti:/ 手 → /katadi:/ 片手
 /tus/ 年 → /araduʃ/ 新年

その他の語例

/di/ [amdira] 縄で編んだ籠の一種、[idi²ɿ] 出る、
 /da/ [dajaf] 棟梁、[dakkjo:] ラッキョウ、[mda²ɿ] 破る
 /du/ [duʃ] 友人、[dufk^sɿgi:] デイゴ、[padu²ɿ] 雀、
 /di:/ [di:ŋgu] 梯梧、[kətadi:] 片手、
 /de:/ [gude:gukku] 鶏の鳴き声 (擬声語)
 /da:/ [maɪda:ra] 米俵、[ʃda:ʃda] 涼しい、
 /do:/ [do:dzɿ] 上手、
 /du:/ [du:] 胴、

4.1.1.3.3. 軟口蓋破裂音 /k//g/

(1) 無声の軟口蓋破裂音 /k/

平良方言の /k/ は、原則として、標準語のカ行の子音 /k/ に対応してあらわれる。その対応関係はつぎのとおりである。

標準語	平良方言
/ka/	— /ka/ [kagam] 鏡、[kadzi] 風、[taka] 鷹、
/ki/	— /k ^s ɿ/ [k ^s ɿmu] 肝、[k ^s ɿŋ] 着物、[k ^s ɿnu:] 昨日
/ku/	— /f/ [fsa] 草、[ifsa] 戦、[ftsɿ] 口、
/ke/	— /ki/ [kita] 桁、[taki] 竹、[saki] 酒
/ko/	— /ku/ [kui] 声、[muku] 婿
/ku/	— /f/ [ftsɿ] 口、[fmu] 雲、[fsɿ] 櫛、

注) 標準語の /ku/ に対応するのは、成節的な子音の [f] である。これは宮古諸方言、あるいは波照間島方言などのいくつかの八重山諸方言に共通にみられるものである。

/ku/ は軟口蓋に調音点をもつ破裂音 /k/ と唇のまるめを特徴とする奥舌母音 /u/ とがむすびついた音節であるが、このときの声道の形は、唇を調音点とする子音 /p/ と奥舌せま母音 /u/ が結合した音節 /pu/ の声道の形に近似していて、/pu/ → /f/ と同様に、つよい呼気によって軟口蓋での閉鎖が「おしひろげ」られ、そのつよい呼気を唇と下歯とでの「ふんばり」で [f] になったものであろう。[摩擦音 /f/ の項参照。]

その他の語例

- ／kɾ／ [k^sɾɪm] 黍、[k^sɾdaikuni] 人参、
[k^sɾs] 切る、[k^sɾpada] 服装、
／ki／ [kiɳʃ] 煙、[kinai] 家庭、[kiŋ] 蹴爪、[kidzɪ] 傷
[kiʃi^zɪ] 煙管、[kitsɪ] 白子、[kiʃii] 着せる
／ka／ [kaja] 茅、[kab^zɪ] 紙、[karadzɪ] 髪、
[kəkʌ] 癌、[kətsa] 蚊帳、[kəsa] 笠、[kəta] バッタ
／ku／ [kubaʃmja] 甲イカ、[kuba] クバ、[kubi] 壁、
[kɯpa:kɯpa] 堅い、[kɯkunuka] 九日
／kɾ:/ [k^sɾ:ba:] 牙、八重歯、[k^sɾ:ru] 黄色、
／ki:/ [ki:ʃitsɪ] 啓蟄、[ki:u^zɪ] 胡瓜、
／ka:/ [ka:ma] むこう、[ka:tu^zɪ] コウモリ、[ka:ra] 瓦、
[ka:gi] 容貌、[ka:ʃnata] ヒキガエル
／ko:/ [ko:ko:] 貧しい、[ko:ko:] 痒い、[ko:dzɪ] 麴、
[ko:ʃ] 菓子、
／ku:/ [ku:] 来い、[ku:mujə] ゴキブリ、[ku:ru] 独楽、

(2)有声音の軟口蓋破裂音／g／

平良方言の／g／は、原則として、標準語のガ行の子音／g／に対応してあらわれる。その対応関係はつぎのとおりである。

標準語 平良方言

- ／ga／ — ．／ga／ [kagam] 鏡、[pagama] 釜、
／gi／ — ．／gɾ／ [m^gɾɪ] 右、[f^gɾɪ] 釘、[mug^zɪ] 麦、
／gu／ — ．／v／ [do:v] 道具、
／ge／ — ．／gi／ [p^sɾgi] 髭、[kagi] 影、
／go／ — ．／gu／ [guma] 胡麻、[gumpo:] ゴボウ

注) 標準語の／gu／に対応するのは、／v／である。この変化も上記のku > f
の変化に準ずる。[摩擦音／v／の項参照。]

無声破裂音／k／ではじまる単語が複合語の後要素になったとき、有声音化して、
有声破裂音／g／があらわれる。これはいわれる「連濁」の現象である。

〔kami〕 瓷 > 〔mimɡami〕 耳付きの瓶、
 〔ki:] 木 > 〔matsɨgi:] 松の木
 〔ku:] 粉 > 〔mamigu:] 豆の粉

標準語との対応が不明な単語で、語頭に有声破裂音 /g/ をもつ語がみられる。

〔gaba:gaba〕 古い、〔gadʒam〕 蚊、〔gi:ra〕 しゃこ貝
 〔giʂki〕 ススキ、〔gura〕 喉仏、〔go:ra〕 なが瓜

その他の語例

/gɨ/ 〔tugʒɨ〕 研ぐ、〔ŋgʒɨ〕 抜く、〔pagʒɨ〕 剥ぐ
 /gi/ 〔ginno:] げんのう
 /ga/ 〔gabafu:] 曾祖父、〔gabamma〕 曾祖母、〔gabjo:
 gabjo〕 瘦せた、〔gama〕 洞穴、〔gadʒimagi:] 榕樹
 /gu/ 〔gufi:] 御神酒、〔gusukubi〕 城辺 〔gurukun〕
 グルケン、〔gufan〕 杖
 /gi:/ 〔gi:] びり、〔m:gi:] 芋の茎
 /ga:/ 〔ga:na〕 アヒル、〔ga:ʂ〕 蟬、〔p^sɨga:] 比嘉 (地名)
 〔aga:ta〕 ずっとむこう、
 /go:/ 〔nigo:] 願う、〔pago:] きたない
 /gu:/ 〔gu:pu〕 瘤

4.4.1.4. 破擦音

平良方言の破擦音 /c/ 〔dz〕、/z/ 〔dz〕 は、いずれも前舌音である。/c/ は無声音で、/z/ は有声音である。

(1) 無声の前舌破擦音 /c/

/ci/ — /cɨ/ 〔tsɨʂ〕 血、〔m^stsɨ〕 道、〔f^stsɨ〕 口
 /cu/ — /cɨ/ 〔tsɨka〕 柄、〔tsɨmi〕 爪、〔tsɨnu〕 角

その他の語例

/cɨ/ 〔tsɨga〕 升、〔tsɨguʒɨ〕 瓢箪

- 〔tsɿ tu〕土産、〔tsɿ k^sɿ fu〕月、月夜、〔tsɿ papa〕蕎
 /ci/ 〔ftɕim:〕朽ち芋（病気の芋）
 /ca/ 〔tsaŋkɿ〕削る、〔kətsa〕蚊帳
 /cu/ 〔m̄tsu〕味噌
 /cɿ:/ 〔atsɿ:atsɿ〕暑い
 /ca:/ 〔po:tsa:] 包丁
 /co:/ 〔m̄tso:] 味噌は、〔kətso:] 蚊帳を
 /cu:/ 〔tsu:tsu:] 強い、〔katsu:] 鯉節、〔m̄tsu:] 味噌を

(2)有声の前舌破擦音 /z/

平良方言において有声破擦音 /z/ は、ザ行の各段、ダ行のイ段、ウ段の音節の子音に対応してあらわれる。いわゆる四つ仮名の区別がなく、いずれも /zɿ/ に統一されている。標準語との基本的な対応は以下のとおりである。

標準語 平良方言

- /za/ — /zɿ/ 〔dzaʃk^sɿ〕座敷、〔kudzara〕小皿
 /zi/ — /zɿ/ 〔dzɿmami〕落花生（「地豆」に対応）〔tudzɿ〕妻
 /zu/ — /zɿ/ 〔midzɿ〕水、
 /ze/ — /zi/ 〔kadzi〕風、〔dziŋ〕銭、
 /zo/ — /zu/ 〔kudzu〕去年、〔m̄dzu〕溝、

その他の語例

- /zɿ/ 〔dzɿbuŋ〕時分、頃合い、〔dzɿnaɸva〕脳、〔dzɿju〕囲炉裏、〔adzɿma:adzɿma〕甘い
 /zi/ 〔dziŋ〕膳、〔adzɿkuja〕シャコ貝
 /za/ 〔dzaka〕じゃこうねずみ、〔kadza〕臭い、〔kadzaʃmu〕風下、〔ffudzata〕黒砂糖、〔adza〕兄、〔budza〕伯父
 /zu/ 〔dzuri〕酌婦、〔nudzum〕望む
 /zɿ:/ 〔dzɿ:] 地面、〔dzɿ:] 痔、〔dzɿ:guru〕独楽
 /zo:/ 〔dzo:kazɿ〕いい、〔dzo:] 門、〔pudzo:] 煙草入れ、
 /za:/ 〔adza:] 兄は、〔budza:] 叔父は
 /zu:/ 〔dzu:] 尾、〔dzu:] さあ（勧誘の感動詞）、〔dzu:miga〕おたまじゃくし

4.4.1.5. 摩擦音 / f, v, s, h /

平良方言の摩擦音は無声摩擦音の / s // f // h /、有声摩擦音の / v / である。
/ f // v / は唇歯音で、/ s / は舌先音、/ h / は声門音である。声門摩擦音 / h /
は、語例もすくなく、例外的、周辺のなものである。

4.4.1.5.1. 唇歯摩擦音 / f // v /

(1) 無声の唇歯摩擦音 / f /

これまでの調査で / f / が舌先母音 / ɿ / と結合した用例をみつけることはできな
かった。平良方言の / f / と標準語の子音との対応はつぎのとおりである。

標準語	平良方言
/ku/	— /f/ [ftsɿ] 口、[fmu] 雲
/hu/	— /f/ [fni] 船、[fta:tsɿ] 二つ

奥舌の狭母音 *u と結合する *p が摩擦音 / f / や / h / になるのは、宮古八重山
方言群に共通の現象であり、これは上村1989のいう「おしひろげ」現象による音韻変
化であって、強い呼気によって唇がおしひろげられた結果、破裂音 p が摩擦音 [f]
に変化したのであろう。

また、*kur- が ff- となる。*ku > *fu > f のようにしてできた [f]
の影響（進行同化）によって後続する -ru、-ra の [r] が摩擦音化したもので
ある。

標準語	平良方言
/kuro/	— /ffu/ [ffukaɿ] 黒い
/kura/	— /ffa/ [ffakaɿ] 暗い、[maffa] 枕

音節をひらく位置 (C₂) にたつ摩擦音 / f / は、かならず2拍以上のながい音節
内にあらわれる。/ f / が音節をひらく位置にきて、みじか母音と結合するときには、
その音節のまえに C₁ としての [f] があり、C₂ として語頭（あるいは音節頭）に
たつときには、なが母音と結合するのが原則である。

- ① [ffatsɿ] 歟、[ffi] イカの墨、[ffu] 閉じる
 ② [fo:] 食べる、[fa:ɸ] 食べない、[fi:i] 呉れる

その他につきのような語例がある。

- /f/ [fsa] 草、[ifsa] 戦、[to:f] 豆腐
 /fi/ [ffi] イカの墨、[ffitatsɿki] 先月
 /fa/ [ffaɸtsa] 野甘草、[miffasa] 妬ましさ
 /fu/ [ffugi] 陰毛、[ffubuki] 煤、[ffukani] 鉄
 /fi:/ [fi:bi:] 与える側
 /fa:/ [ffa:ffa] 暗い
 /fo:/ [fo:bi:] 食べる側、[ffo:ffu] 黒い(程度強調の形)
 /fu:/ [fu:dzɿki] ほうずき、[ffu:ffu] 黒い

(2)有声の唇歯摩擦音/v/

平良方言の/v/と標準語の子音との対応はつきのとおりである。/v/も舌先母音とは結合しないようである。

標準語 平良方言

- (1)/bu/ — /v/ [avva] 油、[pav] 蛇(「ハブ」に対応か)
 (2)/gu/ — /v/ [do:v] 道具

その他に次のような語例がある。

- /v/ [vva] おまえ、[timpav] 虹(「天の蛇」に対応)
 [mavkja:] 前、[vvata:] おまえたち
 /va/ [avva] 油、[vva] おまえ、[vvata:] おまえたち
 /vi/ [avvi] 炙れ
 /vi:/ [javvi:] 破れて
 /va:/ [va:] 豚、[va:bi] 上、[va:tsɿk^sɿ] 天気
 [avva:avva] 脂っこい

[va:] 豚、[va:bi] 上、などの語例にみられる/va/はこれまで/wa/のように記述されることが多かったが、このときの子音は上下の唇を調音点として発音されるのではなく、上唇の内側と下の歯とが触れるか触れないかぐらいのせめをつかって発話される唇歯の摩擦音であるが、摩擦がよわくほとんど聞こえない。

口もとを注意深く観察していなければ、/w/に間違えてしまう。この/v/〔v〕は、話者によって/w/に変化してしまっていることもある。また、/vva-/のように語頭に子音/v/がかさなるとき、最初の/v/は呼気もあまり強くなく、摩擦もよわいので、〔u〕のようにきこえることもあるが、このときも依然として上歯と下唇とのあいだにせばめが形成される。これは両唇をまるめる母音〔u〕とはちがうものである。この摩擦のよわい〔v〕も/v/のバリエントである。

4.4.1.5.2. 無声の舌先摩擦音/s/

平良方言の/s/は、標準語のサ行の子音/s/に対応してあらわれる。その対応関係はつぎのとおりである。

標準語	平良方言
/sa/	— /sa/〔sɑta〕砂糖、〔sara〕皿
/ʃi/	— /s/〔ʃma〕島、〔iʃ〕石、〔ʃta〕下、〔puʃ〕星
/su/	— /s/〔ʃm〕墨
/se/	— /si/〔ʃikiŋ〕世間、〔aʃi〕汗
/so/	— /su/〔sudi〕袖、〔fsu〕糞、憎

標準語の/sir-/が平良方言で/ss-/〔ʃs-〕となる。

/siro/	— /ssu/〔ʃsukaɪ〕白い、〔paʃsa〕柱
/sira/	— /ssa/〔ʃsam〕しらみ

これは第一音節目の〔ʃ〕の影響による順行同化の結果である。平良方言をはじめとする宮古諸方言の流音の〔r〕はさまざまな条件のもとで先行する音節、フォネームの影響によって変化をこうむりやすく、他の子音フォネームに変化している。その他につぎの語例がある。

/s/	〔ʃsaŋ〕知らない、〔ʃtiɪ〕捨てる、
/si/	〔ʃina〕シジミ、浅蜷などの小さな貝、〔ʃiŋdaŋgi:]梅檀 〔ʃiŋʃi:]先生、〔ʃikitanaɣva〕石油
/sa/	〔saba〕草履、〔sana〕傘、〔kasa〕笠、〔sabi〕鋳

〔s̺a̺ta〕砂糖、〔s̺akama〕坂、〔saki〕酒
 /su/ 〔suba〕側、〔suba〕ソバ、〔sunuɪ〕モズク
 〔s̺uku〕底、〔fs̺uku〕不足、〔s̺ukara〕塩辛い
 /si:/ 〔fi:tu〕生徒、〔guʃi:] 神酒、〔piʃi:piʃi〕寒い
 /sa:/ 〔sa:ju:] 白湯、〔sa:ru〕かまきり、〔asa:asa〕浅
 い、〔fsa:fsa〕臭い
 /so:/ 〔so:] 竿、〔so:ga〕生姜、〔so:ju〕醤油、〔so:ki〕
 ザル、〔ʃso:ʃsu〕白い(程度強調の形)
 /su:/ 〔su:] 潮水、〔su:] 野菜、〔su:di〕しょう
 〔ʃsu:ʃsu〕白い、〔p^{s̺}su:p^{s̺}su〕広い

4.4.1.5.3. 声門摩擦音 /h/

以上の摩擦音 /s//f//v/ のほかに、きわめて少数であるが、無声の声門摩擦音 /h/ を有する単語が平良方言にもみられる。標準語の /h/ に対応する平良方言の子音は、/p/ なので、原則的には、声門摩擦音 /h/ はあらわれないはずであるが、つぎのような感動詞や外来の単語に /h/ がみられる。

〔ha:i〕よびかけのことば、〔hai〕よびかけのことば
 〔ha:ri:] 旧暦五月四日に行われる巴龍船競争の行事
 〔hakuru〕白露、〔hi:dʒi:] ふだん、〔huɳ〕本

注) 〔huɳ〕本の発音について、話者たちは、「フとホの中間の音で、フでもなければ、ホでもない。」と話してくれた。宮古方言話者のいう典型的な「フ」とは〔f〕のことであるから、〔hu〕をこのように感じるのであろう。

4.4.1.6. 鼻音 /m, n/

平良方言の鼻音には、両唇音の /m/ と舌尖音の /n/ がある。/m//n/ とともに C₁・C₂・C₃ の位置に置くことができる。鼻音も舌尖母音 /ɪ/ とは結合しないようである。

(1) 両唇の鼻音 /m/

平良方言の /m/ は、原則として、標準語のマ行の子音 /m/ に対応してあらわれる。その対応関係はつぎのとおりである。

標準語	平良方言
/ma/	— /ma/ [mai] 前、[mami] 豆
/mi/	— /mi/ [miɱ] 耳、[mi:tsɪ] 三つ、[midzɪ] 水 /ɱ/ [ɱtsɪ] 道、[ɱtsu] 味噌、[miɱ] 耳
/mu/	— /mu/ [muku] 婿、[mug ² ɪ] 麦、 /ɱ/ [ɱni] 胸、[ɱ:tsɪ] むっつ
/me/	— /mi/ [mi:] 目、[ami] 雨、[jumi] 嫁
/mo/	— /mu/ [mumu] 腿、[mutsɪ] 餅、[ɸmu] 雲

C₁ の位置にくる [ɱ] は、どんな子音が後続しても、両唇の鼻音である。これは標準語や奄美沖縄方言群の撥音 **ɱ** が後続する子音の調音点に同化してあらわれるのとおおきくことになっている。

両唇 破裂音	[ɱpa] いやだ、[gumpo:] ゴボウ [ɱba] いやだ、[jumbuni] 肋骨
鼻音	[ɱma] 母
舌尖 破裂音	[ɱti] 満杯、[ɱta] 土、[aɱdira] 魚籠 [ɱdui] 巳年、[aɱdira] 魚籠
舌尖 破擦音	[ɱtsɪ] 道、[ɱtsu] 味噌 [ɱdzɪmunu] まずいもの、[ɱdzu] 溝
摩擦音	[ɱsuna] ふだんそう (野菜)
鼻音	[ɱni] 胸、[ɱnagu] 砂、[ɱnaka] 真ん中
奥舌 破裂音	[aɱkuni] 魚を捕る竹籠 [aɱgai] あぐら、[kaɱgi] 馬のたてがみ、鶏冠

その他の語例

/m/	[miduɱ] 女、[ɱna] 皆、[ɱnagu:] 砂
/mi/	[miduɱ] 女、[minaka] 庭、[mitʂa: ² ɪ] 三人 [imi] 夢、[sammiɱ] 計算、[kami] 亀
/ma/	[maɱkja:] 真向かい、[manata] 蛙、[maɸfa] 枕

[kama] むこう、[ɕma] 相撲、[ja:ma] 八重山
 /mu/ [munu^z] ことば、[mumuti] 百年、[muɕsu] 筵
 [ɕmu] 下、[jumunu] 鼠
 /mi:/ [mi:] 穴、[mi:uɕ] 雌牛
 [imi:imi] 小さい
 /ma:/ [ma:ma] 継母、[ma:su] 塩、[ma:^z] 毬
 [ama:ama] 甘い、[kuma:kuma] 細かい
 /mo:/ [mo:ki] 儲け
 /mu:/ [mu:] ホンダワラ (海草)
 [umu:] 思う、[kamu:] かまう

(2)舌先の鼻音/n/

平良方言の/n/は、原則として、標準語のナ行の子音/n/と対応してあらわれる。その標準語との対応は、つぎのとおりである。

標準語	平良方言
/na/	— /na/ [nabi] 鍋、[na:] 名、[pana] 鼻、花
/ni/	— /ni/ [ni:] 荷、[ni:] 子 (十二支)、[kani] 金
	/ɲ/ [dʒiɲ] お金 (「錢」に対応)
/nu/	— /nu/ [nunu] 布、[nudu] 喉
	/ɲ/ [iɲ] 犬、[k ^s iɲ] 着物 (「きぬ」に対応)
/ne/	— /ni/ [ni:] 根、[ani] 姉、[fni] 船
/no/	— /nu/ [k ^s inu] 昨日、[nunu] 布

C₁ の位置にくるmが後続する子音C₂ に同化せず、いかなる調音点の子音をも後続させるのに対して、C₂ の子音が両唇を調音点にする子音であるとき、ɲはC₁ にくることができないという制約がある。また、軟口蓋を調音点とする子音が後続するときの実際の [ɲ] の音価は [ŋ] である。

[ɲdza] どこ、[ɲnama] 今
 [ɲg^z] 棘、[ɲkjaɸ] 海ぶどう (せんなりづる・海草の一種)

その他の語例

/n/ [ɲnutsɪ] 命、[ɲkjaɸ] センナリズタ (海草)、[ɲdza] どこ

- 〔n g^z〕 とげ、〔n kja : n〕 昔
- /ni/ 〔nibu ta〕 できもの、〔nigo :〕 シャコ貝、〔ni s〕 北
〔ni y〕 寝る、〔ni y : ni y〕 遅い、〔ni ŋgi n〕 人間
- /na/ 〔naba〕 垢、〔nam〕 波、〔naka〕 中、〔nada〕 涙
〔kanama^z〕 頭、〔n nagu〕 砂、〔panata〕 崖
- /nu/ 〔nu^z 3u :〕 糸、〔nubui〕 首、〔nukug^z〕 のこぎり
〔kanu〕 あ、〔n nuts〕 命、〔nuf : nuf〕 温かい
- /ni : / 〔ni : ka〕 遅く、〔ni : k^s〕 寝息
- /na : / 〔na :〕 名、〔uk^s na :〕 沖繩
- /no : / 〔no :〕 何、〔no : s〕 直す、〔no :^z〕 実る、〔fi : no :〕
篩
- /nu : / 〔nu :〕 野、〔nu :〕 縫う、〔nu :^z〕 乗る、〔nu : ma〕 馬
〔k^s nu :〕 昨日

4.4.1.7. 流音 / r /

平良方言の流音は、はじき音の / r / である。平良方言の流音 / r / は、古代日本語と同様に原則として語頭にたたない。また、先行するせま母音 / i / / u / の空気力学的な影響によって、同化現象をうけて、摩擦音に変化していて、本来 / r / があらわれる単語も減っていて、語例はおおくない。

平良方言の / r / は、原則として、標準語のラ行の子音 / r / に対応してあらわれる。その対応関係はつぎのとおりである。

標準語 平良方言

- /ra/ — /ra/ 〔sara〕 皿、〔tura〕 寅
- /ri/ — /r/ 〔pi^z〕 針、〔tu^z〕 鳥
- /ru/ — /r/ 〔ju^z〕 夜、〔sa^z〕 申
- /re/ — /ri/ 〔kuri〕 これ、〔arari〕 霰
- /ro/ — /ru/ 〔fkuru〕 袋、〔duru〕 泥、〔iru〕 色

その他の語例

- /ri/ 〔pari〕 畑、
- /ra/ 〔bara〕 藁、〔garasa〕 カラス、〔aparagi〕 美人

- 〔jarabi〕子ども(童)、〔mara〕男性性器
 /ru/ 〔k^s₁:ru〕黄色、〔ukiru〕起きろ、〔tatiru〕建てろ
 /ri:/ 〔ri:]例、〔ri:]利子、〔jaburi:]破れて(中止形)
 〔puri:puri〕馬鹿な
 /ra:/ 〔ara:]外、〔sukara:sukara〕塩辛い
 /ro:/ 〔aro:]洗う、〔baro:]笑う、〔naro:]習う
 〔piro:]つきあい、〔k^s₁:ro:k^s₁:ru〕黄色いの強調形
 /ru:/ 〔suru:]揃う、〔maru:maru〕短い

4.4.1.8. 半母音 / j /

平良方言の半母音は、前舌の / j / のみである。標準語や北琉球諸方言にみられる半母音の / w / は、宮古諸方言や八重山諸方言、与那国方言などの南琉球諸方言では / b / に変化している。また、かつて平良方言に / w / が存在するかのようない記述がみられたが、それはおそらく C₂ の位置にくる唇歯の摩擦音 / v / を観察しそこなったものであろう。筆者もかつておなじまちがいをしている。おそらく、他の宮古諸方言の [w] もこの / v / の聞き取りそこねたものであろう。あるいは標準語の影響によって、あるいは方言内部の自然な音韻変化によってあたらしく / w / に変化したものであろう。

平良方言の / j / は、原則として、標準語のヤ行の子音 / j / に対応してあらわれる。その対応関係はつぎのとおりである。

標準語	平良方言
/ja/	— /ja/ 〔jama〕山、〔ja ^z ₁ 〕槍、〔kaja〕茅
/ju/	— /ju/ 〔ju:]湯、〔jum〕弓、〔maju〕眉
/jo/	— /ju/ 〔jumi〕嫁、〔juk ^s ₁ 〕斧(は)、〔juku〕横

その他の語例

/ja/	〔japa:japa〕柔らかい、〔jai:jai〕痩せた(形容詞) 〔jadu〕戸
/ju/	〔juda〕枝、〔judas ₁ 〕涎、〔juni〕粟、〔juɥ〕粥 〔ju ^z ₁ 〕夕食、〔junu〕同じ、〔jucarabi〕夕方
/ja:/	〔ja:]家、〔ja:ts ₁ 〕八つ、〔ja:ni〕来年、〔ja:ɕ〕

- 飢饉、〔ja:di〕 家族、〔ja:ti〕 八年
 /jo: / 〔jo:z₁〕 お祝い、〔jo:ra〕 腰、〔jo:ka〕 八日
 〔jo:〕 硫黄、〔jo:jo:〕 弱い
 /ju: / 〔ju:na〕 ユウナ (植物)、〔ju:ts₁〕 四つ、〔ju:sa〕
 ブランコ、〔ju:duri〕 夕凧、〔ju:ka〕 四日

4.4.1.9. 口蓋音化を特徴とする子音フォネーム

平良方言の口蓋音化を特徴とする子音フォネームは、以下のものである。

/j, pj, bj, tj, dj, kj, gj, fj, vj, sj, mj, nj, rj/

平良方言の口蓋音化を特徴とする子音フォネームは、対応する口蓋音化を特徴としない子音フォネームとのペアをつくっている。

pj	bj	tj	dj	kj	gj	fj	vj	sj	cj	zj	mj	nj	rj
p	b	t	d	k	g	f	v	s	c	z	m	n	r

口蓋音化を特徴とする子音フォネームのうち /j/ はペアになる口蓋音化を特徴としない子音フォネームをもたないが、この /j/ は口蓋音化を特徴とする子音フォネームと口蓋音化を特徴としないフォネームのむすび目になるもので、五十音図では、/j/ をふくむ音節は直音の系列にふくまれている。

語末に前舌せま母音 /i/ がくる平良方言の名詞は、格助辞 [-ju] と、とりたて助辞 [-ja] がつくと、語幹末の母音と助辞が融合して口蓋音化した子音フォネームがあらわれる。

〔nabi〕 鍋	〔nabju:〕 鍋を	〔nabja:〕 鍋は
〔puti〕 痣	〔putju:〕 痣を	〔putja:〕 痣は
〔sudi〕 袖	〔sudju:〕 袖を	〔sudja:〕 袖は
〔saki〕 酒	〔sakju:〕 酒を	〔sakja:〕 酒は
〔kagi〕 影	〔kagju:〕 影を	〔kagja:〕 影は
〔ffi〕 イカの墨	〔ffju:〕 墨を	〔ffja:〕 墨は

〔a f i〕汗	〔a f u :〕汗を	〔a f a :〕汗は
〔k a d ʒ i〕風	〔k a d ʒ u :〕風を	〔k a d ʒ a :〕風は
〔m a m i〕豆	〔m a m j u :〕豆を	〔m a m j a :〕豆は
〔p u n i〕骨	〔p u n j u :〕骨を	〔p u n j a :〕骨は
〔p a r i〕畑	〔p a r j u :〕畑を	〔p a r j a :〕畑は

語例はすくないけれども、標準語の口蓋音化を特徴とする子音フォネームに対応してあらわれるばあいがある。その単語のおおくが漢語に由来するものである。

漢語	〔tʃa :〕お茶、〔tʃu : dʒa r a〕中皿、〔kjo : dai〕兄弟
	〔pja : ku〕百、〔dʒu :〕十、〔gjo : ritsu〕行列
和語	〔kju :〕今日、〔tʃu : dʒi g a n i〕洗面器(手水金)

先行する前舌せま母音 / i / の影響で口蓋音化する例が、すくないけれども、みられる。この先行する前舌せま母音 / i / による口蓋音化は、15世紀に琉球王府によって編纂された「おもろさうし」にもっともよくみられるもので、奄美方言や沖縄方言にもみられるものであるが、これらの奄美沖縄方言群に比較すると、平良方言をはじめとする宮古諸方言にはあまりみられないようである。

〔i k j a〕イカ、〔ŋ g j a : ŋ g j a〕苦い

/pja/	〔pja y n a〕平安名(地名)
/pja :/	〔pja : pja :〕早い
/pju :/	〔pju : ^ʒ 〕日取り
/bja/	〔bja f' u ʃ〕耕作用の牛、〔kubja s u m a〕甲イカ
	〔b a b j a〕鯛の一種
/bja :/	〔n a b j a : r a〕へちま、〔u i b j a :〕指は
/bjo :/	〔g a b j o : g a b j o :〕痩せている(形容詞)
/bju :/	〔bju : ^ʒ 〕酔う、〔u i b j u :〕指を
/tja :/	〔m u t j a :〕分は、〔a s a t j a :〕明後日は
/tju :/	〔m u t j u :〕分を、〔a s a t j u :〕明後日を
/dja :/	〔i d j a : ŋ〕出会わない、〔u d j a :〕腕は
/djo :/	〔i d j o :〕出会う
/dju :/	〔u d j u :〕腕を

- /kja/ [ikjama] 池間島、[ikjaraka²] 少ない、[ɲkja f] セン
 ナリズタ (海草の一種)、[ɲkjadura] 荷川取 (地名)
- /kja:/ [taɣkja:] 一人、[ɲkja:ɲ] 昔、[kja:gi] イヌマキ (木
 の種類)、[kja:ʃ] 消す
- /kjo:/ [dakkjo:] ラッキョウ
- /gja/ [tugja] 棘、[guŋgja] おんぶ、[ŋgjamaʃ] うるさい
 [ŋgja²] 胆嚢、[tsɪgja] 鷹をとる仕掛け
- /gja:/ [nagja:f] 長く (副詞)
- /gju:/ [kagju:] 影を
- /fja/ [ffjama] 来間島
- /fja:/ [ffja:] (イカの) 墨は
- /fju:/ [ffju:] (イカの) 墨を
- /vja/ [ɣvjamaʃ] 羨ましい
- /sja:/ [ʃa:ka] 早朝
- /sjo:/ [ʃo:gacɪ] 正月、[ʃo:ʃimami] 緑豆
- /sju:/ [ʃu:] 祖父、[ʃu:kan] 小寒 (二十四節季のひとつ)
- /cja/ [tʃabaɲ] 茶碗
- /cja:/ [kuitʃa:] クイチャー (踊りの名称)、[nacja:ra] 海人草
- /cjo:/ [tʃo:ki] 茶請け
- /cju:/ [tʃu:ka] 急須
- /zja/ [dʒagu] 雑魚
- /zja:/ [dʒa:ɲna] だけ (形式名詞)、[dʒa:na] 同士
- /zjo:/ [dʒo:to:] 上等、[dʒo:bun] もういい、[dʒo:gu] 上戸
- /zju:/ [dʒu:] 十、[dʒu:gatsɪ] 十月、[dʒu:rukunitsɪ]
 十六日 (小正月)
- /mja/ [ɲmja²] いらっしゃる
- /mja:/ [mja:ku] 宮古、[mja:rabi] 女郎、[a²ɲk^sɲmja:] 歩き
 比べ、[baka²ɲmja:] 奪い合い、[tu²ɲmja:] 取り合い
 [imɲmja:] クラゲの一種
- /mju:/ [mju:tu] 夫婦、[mju:²] 姪甥、[mju:ni] 船の敬称
- /nja/ [ɲnjada] まだ (副詞)、[ɲnjapi] もっと
- /nja:/ [nja:ɲ] 無い、[nja:bi] 真似、[nja:nja:da] 薬指
 [junja:ɲ] 晩、[i²ɲnja:] 西の家
- /nju:/ [fnju:] 船を、[punju:] 骨を

/rja/ [imburja] 海狂い
 /rja:/ [ararja:] 霰は、[parja:] 畑は
 /rju:/ [ararju:] 霰を、[parju:] 畑を

4.4.1.10. 唇音化を特徴とする子音フォネーム

平良方言の唇音化を特徴とする子音フォネームとして、かぞえあげられるものは、
 /w, kw, kw/のみつつである。/w/は、不安定なフォネームで、/kw//gw/も
 沖縄諸方言に比較して、語例もすくなく、周辺的なフォネームである。

	首里方言	平良方言
菓子	[kwa:ʃi]	[ko:ʃ]
子	[kwa]	[ffa]
枕	[makwa]	[maffa]
カボチャ	[nanɤkwa:]	[nanɤko:]
呉れる	[kwi:n]	[fi:ʔ]
肥料	[kwe:]	[ffa]

/kwa/ [kwampa] 喪主のきる袴状の衣服。
 /gwa/ [gwanjaku] 丸薬、[gwansu] 先祖

4.4.2. なが子音フォネーム

平良方言の子音フォネームには、その子音一個だけで2モーラ拍)にかぞえること
 のできる、ながい子音フォネームがある。平良方言のなが子音フォネームは、有声摩
 擦音の長い子音/v:/、鼻音の長い子音/m:/、/n:/である。

/v:/ [v:ʃ] 節 (首里方言 [gu:ʃi] に対応)
 [iɤ:iɤ] 重い
 /m:/ [m:] さつま芋、[m:nuɤ] 芋練り、[m:gi:] 芋の茎
 [jam:jam] 痛い、
 /n:/ [n:kaɤ] 似ている、[n:n:] 似ている (疊語形)

4.5. 単語のフォネーム=音節構造

1モーラのみじかい音節を○で、2モーラのながい音節を○でしめすと、平良方言の単語のフォネーム=音節構造はつぎのとおりである。平良方言には1音節1モーラの単語はなく、最小の音節構造の単語は、1音節2モーラである。

音節数	リズム構造	フォネーム構造	語例
1音節語	○	V: CV: C:	/a:/泡、 /i:/胃、 /u:/追う /mi:/目、 /ti:/手、 /bu:/緒 /m:/芋、 /v:/売る、 /n:/うん
2音節語	○○	VCV CVCV CCV VC CVC	/ica/板、 /udi/腕、 /naba/垢、 /mizɨ/水、 /ffa/子、 /mta/土、 /nka/糠 /im/海、 /un/鬼、 /af/菓子 /kuv/昆布、 /num/蚤、 /kan/蟹
	○○○	VCV: CCV: CVCV: VC: CVC:	/ara:/外 /ino:/内海 /ffa:/子は、 /mma:/祖母は /butu:/夫を — —
	○○○	V:V CV:V V:CV CV:CV V:C C:CV C:C CV:C CCCV	/a:i/いいや(返事)、 /u:ɨ/瓜、 /ma:ɨ/毬、 /fi:ɨ/呉れる /u:du/布団、 /a:sa/あおさ(海草) /ka:ra/瓦、 /ja:su/飢饉 — /m:ku/膿、 /m:mi/熟して /v:s/串、 /s:v/冬瓜 /to:f/豆腐、 /nja:n/無い /ftca/鯨、 /mtca/道は
	○○○	V:V: CV:CV C:CV: C:CVV CCCV: CV:C: C:C:	/o:o:/青い /jo:jo:/弱い、 /tu:tu:/遠い /m:gi:/芋の茎 /n:kaɨ/似ている /ftca:/鯨は /ni:m:/煮芋 /n:n:/似ている

平良方言の音節一覧表

$\begin{matrix} 1 \\ [z_1 \sim 1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} i \\ [i] \end{matrix}$		$\begin{matrix} a \\ [a] \end{matrix}$	$\begin{matrix} o: \\ [o:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} u \\ [u] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ja \\ [ja] \end{matrix}$	$\begin{matrix} jo: \\ [jo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ju \\ [ju] \end{matrix}$
	$\begin{matrix} hi: \\ [hi:] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ha \\ [ha] \end{matrix}$		$\begin{matrix} hu \\ [hu] \end{matrix}$			
$\begin{matrix} k^1 \\ [k^s_1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ki \\ [ki] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ka \\ [ka] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ko: \\ [ko:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ku \\ [ku] \end{matrix}$	$\begin{matrix} kja \\ [kja] \end{matrix}$	$\begin{matrix} kjo: \\ [kjo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} kju: \\ [kju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} g^1 \\ [g^z_1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} gi \\ [gi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ga \\ [ga] \end{matrix}$	$\begin{matrix} go: \\ [go:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} gu \\ [gu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} gja \\ [gja] \end{matrix}$	$\begin{matrix} gjo: \\ [gjo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} gju: \\ [gju:] \end{matrix}$
	$\begin{matrix} ti \\ [ti] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ta \\ [ta] \end{matrix}$	$\begin{matrix} to: \\ [to:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} tu \\ [tu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} tja: \\ [tja:] \end{matrix}$		$\begin{matrix} tju: \\ [tju:] \end{matrix}$
	$\begin{matrix} di \\ [di] \end{matrix}$	$\begin{matrix} de: \\ [de:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} da \\ [da] \end{matrix}$	$\begin{matrix} do: \\ [do:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} du \\ [du] \end{matrix}$	$\begin{matrix} dj a: \\ [dj a:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} dj o: \\ [dj o:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} dj u: \\ [dj u:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} p^1 \\ [p^s_1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} pi \\ [pi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} pa \\ [pa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} po: \\ [po:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} pu \\ [pu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} pja \\ [pja] \end{matrix}$		$\begin{matrix} pju: \\ [pju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} b^1 \\ [b^z_1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} bi \\ [bi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ba \\ [ba] \end{matrix}$	$\begin{matrix} bo: \\ [bo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} bu \\ [bu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} bja \\ [bja] \end{matrix}$	$\begin{matrix} bjo: \\ [bjo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} bju: \\ [bju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} c^1 \\ [ts_1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ci \\ [tʃi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ca \\ [tsa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} co: \\ [tso:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} cu \\ [tsu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} cja \\ [tʃa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} cjo: \\ [tʃo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} cju: \\ [tʃju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} z^1 \\ [dz_1] \end{matrix}$	$\begin{matrix} zi \\ [dʒi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} za \\ [dʒa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} zo: \\ [dʒo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} zu \\ [dʒu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} zja \\ [dʒa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} zjo: \\ [dʒo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} zju: \\ [dʒju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} s \\ [ʃ] \end{matrix}$	$\begin{matrix} si \\ [ʃi] \end{matrix}$	$\begin{matrix} se: \\ [ʃe:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} sa \\ [sa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} so: \\ [so:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} su \\ [su] \end{matrix}$	$\begin{matrix} sja: \\ [ʃa:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} sjo: \\ [ʃo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} sju: \\ [ʃju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} f \\ [f] \end{matrix}$	$\begin{matrix} fi \\ [fi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} fa \\ [fa] \end{matrix}$	$\begin{matrix} fo: \\ [fo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} fu \\ [fu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} fja \\ [fja] \end{matrix}$		$\begin{matrix} fju: \\ [fju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} v \\ [v] \end{matrix}$	$\begin{matrix} vi \\ [vi] \end{matrix}$		$\begin{matrix} va \\ [va] \end{matrix}$		$\begin{matrix} vu \\ [vu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} vja \\ [vja] \end{matrix}$		
$\begin{matrix} n \\ [n] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ni \\ [ni] \end{matrix}$		$\begin{matrix} na \\ [na] \end{matrix}$	$\begin{matrix} no: \\ [no:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} nu \\ [nu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} nja \\ [nja] \end{matrix}$		$\begin{matrix} nju: \\ [nju:] \end{matrix}$
$\begin{matrix} m \\ [m] \end{matrix}$	$\begin{matrix} mi \\ [mi] \end{matrix}$	$\begin{matrix} me: \\ [me:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ma \\ [ma] \end{matrix}$	$\begin{matrix} mo: \\ [mo:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} mu \\ [mu] \end{matrix}$	$\begin{matrix} mja \\ [mja] \end{matrix}$		$\begin{matrix} mju: \\ [mju:] \end{matrix}$
	$\begin{matrix} ri \\ [ri] \end{matrix}$		$\begin{matrix} ra \\ [ra] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ro: \\ [ro:] \end{matrix}$	$\begin{matrix} ru \\ [ru] \end{matrix}$	$\begin{matrix} rja \\ [rja] \end{matrix}$		$\begin{matrix} rju: \\ [rju:] \end{matrix}$

※ うえの表は、みじかい音節を中心に示しているが、当該のみじかい音節の語例がないところは、ながい音節(なが母音をふくむ音節)でしめしている。

【参考文献】

- 上村幸雄1997 「音声研究と琉球方言学」(『ことばの科学8』むぎ書房)
- 上村幸雄1996 「日本語音声の歴史的なふかさと地域的なひろがり」(『沖縄言語研究センター資料No.131』)
- 上村幸雄1992 「母音の調音音声学的記述の方法－IPAの1989年改訂に関連して－」(『沖縄言語研究センター資料No.100』)
- 上村幸雄1992 「acute accent と grave accent」(『沖縄言語研究センター研究報告I 琉球列島の音声の収集と研究I』)
- 上村幸雄1991 「琉球列島の言語」(『言語学大辞典』)
- 上村幸雄1990 「日本語の母音、子音、音節－調音運動の実験音声学的研究－」国立国語研究所報告100 (高田正治と共著)
- 上村幸雄1989 「音韻変化はどのようにしてひきおこされるか(2)－琉球列島諸方言のばあい－」(『沖縄言語研究センター資料No.79』)
- 上村幸雄1987 「音韻変化はどのようにしてひきおこされるか－英語の Great Vowel Shift についての考察－」(『沖縄言語研究センター資料No.67』)
- 上村幸雄1983 「単語のリズム・アクセント的構造の分析方法について－今帰仁村与那嶺方言を例として－」(『沖縄言語研究センター資料No.39』)
- 上村幸雄1978 「X線映画資料による母音の発音の研究－フォネーム研究序説－」
- 上村幸雄1972 「琉球方言入門」(『言語生活』251号)
- 内間直仁1984 「宮古諸島の方言」(『講座方言学10－沖縄・奄美地方の方言－』)
- 沖縄県教育委員会1978 「多良間島の方言－琉球方言緊急調査第3集」
- 沖縄県教育委員会1975 「波照間の方言－琉球方言緊急調査第2集」
- 加治工真市1977 「音韻」(『琉球の方言－宮古大神島－』)
- 加治工真市1989 「宮古方言音韻論の問題点」(『沖縄文化－沖縄文化協会創設四〇周年記念誌－』)
- かりまたしげひさ1982 「宮古島方言のフォネームについて」(『琉球の言語と文化』)
- かりまたしげひさ1984 「宮古方言のフォネームはいかに記述されてきたか」(『沖縄言語研究センター資料No.53』)
- かりまたしげひさ1986 「宮古方言の『中舌母音』をめぐって」(『沖縄文化』66)
- かりまたしげひさ1987 「宮古方言の成節的な子音をめぐって」(『琉球方言論叢』)
- 『現代英語学辞典』(1973初版, 1975参版)
- 崎山理1963 「琉球・宮古方言比較音韻論」(『国語学』54)
- 柴田武1972 「琉球方言について」(『全国方言資料 琉球編II』)
- 仲宗根政善1962 「琉球方言概説」(『方言学講座』第4巻)
- 中本正智1976 『琉球方言音韻の研究』
- 服部四郎1951 『音声学』
- 平山輝男1964 「琉球宮古方言の研究」(『国語学』56)
- 平山輝男編1983 『琉球宮古諸島方言の基礎語彙の総合的研究』
- 宮岡伯人1998 「危機に瀕した言語－崩れゆく言語と文化のエコシステム」(シンポジウム『危機に瀕した言語』予稿集、日本言語学会)
- 宮古学術調査1968 「宮古諸島学術調査報告(言語・文学編)」